

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

現在、日本の子どもたちを取りまく、「働く」環境はA過渡期にあります。

世界がグローバル化していく中で、最近、私が強く感じているのは、アジアの経済、とりわけ中国経済の躍進ぶりです。私は、ワタミの仕事で中国へ半年ごとに行っています。①たった半年しかたっていないのに行くたびにおどろきの発見があります。

その一つは、まず、中国で働いている人たちの“働き方”がものすごく変わってきていることです。一人ひとりがとてもハングリーで、ガラガラしていて、お金というものにとっても貪欲です。二カ国語、三カ国語を自在に操る人もたくさんいます。そういった人が増えているから、中国はあれだけの経済発展を上げているのです。

やがてその波は日本にも押し寄せてきます。経済的な波だけではなく、人材の流入なども激しくなるでしょう。いまの日本の中学生、若者たちは否が応にも、そういったグローバル化された社会の中で生きていかなければなりません。一流でなければ、プロでなければ生きていけない時代が近い将来やってくるのです。

カンボジアの子どもたちは食べるものもなく、とてもハングリーです。中国の子どもたちも豊かさを求め、とてもハングリーです。

②日本の子どもたちはどうでしょうか？ そうはいつでも恵まれた環境のなかで生きてきた日本の子どもたちにハングリ―さを求めるのは酷です。

(a)、どうすれば良いのか。それは、子どもたちに“自分のため”ではなく、“人のため”に働くことを教えていくことです。

お金のためではなく、他人の幸せのために働くことの素晴らしさを教えていくのです。大発展をとげる海外の国々に飲み込まれることなく、日本が生き残っていくにはそれしか道はないと私は思っています。

日本は働くこと、仕事に対することへの教育が遅れています。本書のタイトルにもある③「十四歳」という比較的若い頃から、仕事に対して考える機会をもつことはとても重要なことです。

私が経営している郁文館夢学園では、そのようなことを踏まえつつ生き方、社会とのかかわり、職業観を生徒に考えさせる教育を実践しています。

国語、数学、理科、社会などを勉強するのは、テストでよい点数をとることが目的ではなく、全ての教科が将来、社会へ出たときに役立つものだからです。

教科の授業はもちろん、中学に入学したと同時に、将来の仕事、働くことに対して、ちゃんと自分なりの考えをもち、仕事を通してなりたい自分を見つけ、その夢をB育む教育を行っています。

「夢」|| 「世の中とかわかること」|| 「ありがとう」をもらうこと、これが“商い”につながっていくのです。いかにして“商い”の心を身につけさせるのか、もしくはどんな“商い”をしたいのか、ということを中学・高校の六年間で教育していきます。

全国的に見ればこのような教育を取り入れているところはまだ少数なのがC実情です。(b)、高校三年生、大学三、四年生になって、就職活動を通してはじめて仕事に対して意識し、探そうとしても遅いのです。

もっと早い時点で、「(D) (c)」を見つけておかなければなりません。仕事、働くことの意味を子どもたちが理解するのに、早すぎるということはありません。

私は十歳で「社長になる」という夢を持ち、高校、大学と社長になるための努力をつづけ、大学卒業の二年後に会社を作り、社長になりました。(A)

二〇〇〇年にワタミは東証一部上場をはたし、現在では外食産業だけではなく、介護、農業、環境などの事業も手がけています。(イ)

本書は、郁文館夢学園の生徒たちの質問に答える形で、「働くことの意味」「仕事とは何なのか」「会社を経営するということとはどういうことなのか」「商売をするためには何が必要なのか」「どうすれば“夢”はかなうのか」について伝えています。

いずれの質問も、十四歳である生徒たちの純粹かつ素朴な問いかけから生まれたものです。生徒たちが自ら疑問に思いぶつけてきた質問は、大人のようにこなれたものにしよという意識が少ない分、本質を突いた鋭いものばかりでした。(ウ)

社会に関心をもつこと、自分の行動に責任を感じることで仕事観、職業観がまったく変わってきます。本書を読むことで、社会の仕組みを知ると同時に、どんなことをすれば人の役に立てるのかを感じ取れる人間になってほしいと思います。(エ)

(c)、保護者のみなさまには、どのようなことをすれば人の役に立てるのか、という価値観をもった子どもを育ててほしいと思います。そして自分自身にもそのような価値観があるのか問いかけてみてください。

なぜなら、親の価値観はそのまま子どもに反映されるからです。「人に迷惑をかけなければ何をしてもいい」ではなく、「人のために何ができるか」を考えられる人間こそ、本当の幸せがやってくるのです。

本書で私が語っているのは、子どもたちだけにむけたものではありません。④実は保護者のみなさまへのメッセージでもあります。本書を読むことで、一人でも多くの人に幸せになるための入口を見つけてほしいと願っています。本書がそのお役

に立てたとするならば、これにまさる喜びはありません。

(渡邊美樹 『十四歳からの商い』より)

※出題の都合上、省略・改変した箇所があります。

〈設問〉

問一 線部A～Cの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 () 欄a～cに入る語として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ また ウ このように エ では

問三 線部①「たった半年しかたっていないのに行くたびにおどろきの発見があります」とありますが、おどろきの発見の具体例として、ふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 数力国語を自在に操る人が多いこと。
イ 心も外見も、ガラガラしていること。
ウ お金というものにとっても貪欲なこと。
エ ハングリーな働き方をしていること。

問四 線部②「日本の子どもたちはどうでしょうか？」とありますが、筆者は日本の子どもにも、どのような子どもにもなってほしいと考えていますか。文中から三十五字以内でさがし、はじめと終わりの五字を書き抜いて 答えなさい。句読点も一字として数えます。

問五 線部③「十四歳」という比較的若い頃から、仕事に対して考える機会をもつことはとても重要なことですが「とありますが、なぜ」とても重要」なのででしょうか。その理由として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本は仕事に対することへの教育が世界で一番遅れているので、仕事について急いで考える必要があるから。
イ 他人のために働くことを教えることで、カンボジアや中国のために働く重要性を知らなければならないから。
ウ 日本がグローバル化された社会で生き抜くためには、若いころから仕事について考えなければならないから。
エ 恵まれた環境のなかで生きてきた日本の子どもたちにハングリーさを求めるのは、あまりにも酷であるから。

問六 () 欄Dに入る語として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 自分の生きる道 イ 教科を学ぶ意味 ウ 世界の進む方向 エ 学ぶべき教育

問七 本文には、次の一文が抜けています。本文にもどす時、もっともふさわしい場所を、文中の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

私も生徒たちの熱意に応えようと、これまで自分が社長として仕事を通して、経験し、学んできた大切なことを、あますことなく、精一杯、できる限りわかりやすく答えるように努めました。

問八 線部④「実は保護者のみなさまへのメッセージでもあるのです」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を使って、二十字以内で簡潔に答えなさい。

問九 本文中に述べられている内容と合っているものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世界がグローバル化していく中で、アジア経済を代表する中国経済は世界二位まで躍進した。
イ カンボジアの子どもたちは食べるものがなく、世界各国の援助がなければならぬ国である。
ウ 教科の授業とは、テストでよい点数をとるためではなく、就職活動を成功させるためにある。
エ これからの時代を生きるために、社会の仕組みを知り、行動に責任を感じる力が大切である。
オ 現在、日本の子どもたちをとりまく環境は乱れ、本当の幸せがやってくる状況とは言えない。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あるひ、A トシヨカンに ライオンが はいってきました。かしたしカウンターのよこをとおり、ずんずんあるいていきます。としよかんいんのマクビーさんは、(a) かけだし、おくにある としよかんちようの B へやへとびこんでさげびました。

「メリウエザーかんちよう！」

「はしってはいけません」

と、メリウエザーさんは、かおもあげずに いました。

「でも、ライオンが いるんです！ としよかんに！」

と、マクビーさん。

「で、そのライオンは としよかんのきまりを まもらないんですか？」

と、メリウエザーさんは ききました。きまりについては、なかなかうるさいのです。

「いえ、べつに、そういうわけでは……」

と、マクビーさんは いいました。

「それなら そのままにしておきなさい」

ライオンは、としよかんのなかを (b) あるきまわりました。もくろくカードのにおいを (a) くんくんかいだり、あたらしいほんのたなに、たてがみをこすりつけたりしました。それから、えほんのへやで、きもちよさそうに ねてしまいました。

さて、どうしたらいいでしょう。としよかんのきまりには、ライオンがきたときのことなど、なにも かいいてないのです。やがて、おはなしのじかんが はじまりました。『ライオンが おはなしをきいてはいけない』というきまりはありません。としよかんのおねえさんは、すこしどきどきしながら、えほんのたいをおおきなこえで はつきりと よみあげました。すると、ライオンが おきあがりました。おねえさんは、ほんをよみはじめました。

ライオンは、ふたつめのおはなしも (c) きいていました。そのつきも、きいていました。

つきは、どんなおはなしかな？ とところが、こどもたちは たちあがって へやをでていってしまいました。

「おはなしのじかんは もうおわりだよ」

と、ちいさなおんなのこが おしえてくれました。

ライオンは、こどもたちのおおを みつめました。おはなしのおねえさんのおおを みつめました。とじたほんを みつめました。それから、おおきなおおきなこえで ほえました。

としよかんちようのへやから、メリウエザーさんが、(イ) つかつかと あるいてきました。

「おおきなこえをだしたのは どなたですか？」

「ライオンです」

と、マクビーさんがいいました。

①メリウエザーさんは、ライオンのまんまえにくると、

「しずかにできないなら、としよかんから でていっていただきます。それが きまりですから！」

と、いいわたしました。

ライオンは、かなしそうに うなっています。

ちいさなおんなのこが、メリウエザーさんのふくを ひっぱって ききました。

「しずかにするって やくそくすれば、あしたも おはなしのじかんに きていいんでしょ？」

ライオンは、うなるのをやめて、メリウエザーさんのおおをじつとみしました。

メリウエザーさんは、ライオンをみつめると、

「ええ、いいですとも。しずかにできる、おぎょうぎのいいライオンなら、もちろんあしたも おはなしのじかんに きていいですよ。」

②「やったー！」

と、こどもたちは よろこびました。

ライオンは、つぎのひに、またやってきました。

「ずいぶん はやいですね。おはなしのじかんは、三じからですよ」

と、メリウエザーさんはいいました。でも、ライオンは うごこうとしません。

「それなら、なにか おてつだいをしていたらきましよう」

と、メリウエザーさんは いいました。そして、おはなしのじかんがくるまで、C ヒヤツカジテンの たなのほこりを はらってもらいました。

つぎのひも、ライオンは はやくから やってきました。メリウエザーさんは、ほんをかえすが おくれたひとにだすてがみに ふうをするために、ライオンに ふうとうをなめてもらいました。

やがて ライオンは、いわれなくても いろいろなおてつだいを するようになりました。ひゃっかじてんのほこりをはらい、ふうとうを なめました。ちいさなごどもたちを せなかにのせて、たかいところにてがとどくようにしてあげました。あとは、おはなしのじかんになるまで えほんのへやでゆったりと ねそべっていました。

としょかんにくるひとたちは、はじめのうちは ライオンが すこしこわかったのですが、だんだんに なれてきました。としょかに ライオンがいるというのはなかなかいいものです。ライオンのおおきなあしは あるくとき ちっともおとをたてないし、おはなしのじかんには こどもたちが ゆったりとライオンによりかかっていられます。それに、ライオンはもうとしょかんのなかで ほえることはありませんでした。「やくにたつライオンだね」と、みんなは いいました。ライオンが とおりかかると、やさしくあたまをなでて、「としょかんは、ライオンがいなければやっていけないよね」と、いうのでした。

それをきいた ③としょかんのマクビーさんは、おもしろくありません。としょかんは、ライオンがくるまえから ちゃんと やっていたじゃありませんか。ライオンなんか、いなくたって！ だいたい、ライオンにきまりのことがわかるはずないし、としょかにライオンがいるなんて、きいたことがありません。

あるひ、ライオンは、ひゃっかじてんのほこりをすっかりはらい、ふうとうを ぜんぶなめ、ちいさなごどもたちのおてつだいも すませると、まだなにかようじがあるのかもしれないとおもって、メリウエザーさんのへやまで あるいていきました。おはなしがはじまるまで、まだしばらく じかんがありました。

「こんにちは、ライオンさん」
とメリウエザーさんは いいました。

「てつだってほしいことが ありますよ。ほんをDイツサツ、かしだしカウンターへ はこんでほしいの。いま、そのほんを たなからおろしますから」

そういうと、メリウエザーさんは ふみだいに のり、いちばんたかいたなに てをのびしました。でも、もうすこしのところで ほんには とどきません。そこで、つまさきだちになって せのびしました。

「もう……ちよつと……」
メリウエザーさんは、おもいきり てをのびしました。そして……
たおれてしまいました。

「いたた……」

メリウエザーさんは、おきあがることもできずに、
「マクビーさん！ マクビーさん！」
と、よびました。

でも、マクビーさんは、かしだしカウンターへいたので、きこえませんでした。

「ライオンさん、マクビーさんを よんできてくださらないかしら」

と、メリウエザーさんは いいました。ライオンは、ろうかをはしっていきました。

「はしってはいけません」

と、メリウエザーさんは こえをかけました。

ライオンは、かしだしカウンターに おおきなまえあしをかけて、マクビーさんを見つめました。
「どいてくださいよ、いそがしいんだから」

と、マクビーさんは いいました。

ライオンは、メリウエザーさんのへやのほうにはなをむけて、(ウ) くいん、くいんと なきました。ところが、マクビーさんはしらんかおです。こうなったら、ライオンにできることは、たったひとつしかありません。ライオンは、マクビーさん をじつとみつめると、くちをおおきくあげました。④そして、いまま で いきてきたうちで、いちばん おおきなこえで ほえました。

マクビーさんは、びっくりして いいました。

「しずかにしなきゃ、いけないんだぞ！ きまりをまもってないじゃないか！」

マクビーさんは、はしらないように きをつけながら、いそいで へやをでていきました。

ライオンは、ついていきませんでした。きまりをまもれなかったのですから、しかたありません。ライオンは、(d) でぐちへむかいました。マクビーさんは、それには きづきませんでした。

「メリウエザーかんちょう！」

と、マクビーさんは、あるきながら おおごえで いいました。

「かんちょう！ ライオンが、きまりをまもってません！ きまりをまもってません！」

マクビーさんは、メリウエザーさんのへやに とびこみました。ところが、いつものつくえに、すがたが みえません。

「メリウエザーかんちょう、どちらですか？」

すると、つくえのむこうで メリウエザーさんのこえがします。ゆかに たおれているではありませんか。「たまには、ちゃんとしたわけがあつて、きまりをまもれないことだつてあるんです。いくらとしよかんのきまりでもね。さあ、おいしゃさんを よんできてくれませんか。うでのほねが おれてしまったようです」

マクビーさんは、あわてて、おいしゃさんをよびに かけだしていきました。

「はしつては、いけません！」

と、メリウエザーさんが こえをかけました。つぎのひのとしよかんは、いつもとどこか ちがつていました。メリウエザーさんは、ひだりてに ギブスをはめています。おいしゃさんからは、あまり はたらきすぎないように、といわれていました。

「ライオンが てつだつてくれるといいのに」
とメリウエザーさんは おもいました。でも、けさは ライオンのすがたが みえません。

三じになると、メリウエザーさんは、えほんのへやまで いったみました。おねえさんが、こどもたちに おはなしをよみはじめたところでした。けれども、ライオンは いませんでした。

としよかんにきたひとたちは、ほんをさがしたり、コンピュータでしらべたりしながら、いつものように、あのおおきな(エ) ふさふさのおおを みたいものだとおもっていました。でも、ライオンは とうとうやっつきませんでした。

つぎのひも、ライオンは きませんでした。そして、つぎのひも。あるひのゆうがた、しごとをおえたマクビーさんは、かえるまえに、メリウエザーさんのへやに よりました。

「なにか ごようがあれば、おてつだいしましょうか？」

と、マクビーさんは ききました。

「ありがとうございます。でも けつこうよ」

と、メリウエザーさんは まごのそとを みながら とてもしずかに いいました。いくらとしよかんでも、そこまでしずかにしなくていいのに。

マクビーさんは、こまつたようなかおをしてでていきました。そういわれても、なにかてつだつてあげることが、あるようなきがしたのです。

マクビーさんは、としよかんをでましたが、まっすぐいえには かえりませんでした。としよかんのまわりを ぶらぶらあるいてみました。くるまのしたや、うえこみのむこうを のぞいてみました。よそのいえの うらにわや、ごみおきばや、きのうえも しらべました。

マクビーさんは、きんじよをぐるつと まわつて、また としよかんにもどつてきました。すると、としよかんのまえにライオンが Eスワつていました。いりぐちの ガラスのとびらを みつめています。

「こんばんは、ライオンさん」

と、マクビーさんは こえをかけました。ライオンは、ふりむきません。

「あもう、ごぞんじないかもしれませんが、としよかんのきまりが かわつたんですよ」
と、マクビーさんは いいました。

「おおごえで ほえてはいけません。ただし、ちゃんとしたわけがあるときは べつ。つまりその、けがをしたともだちを たすけようとするときなど、つてことですけどね」

⑤ライオンのみみが びくつと うごきました。そして、こつちを ふりむきました。けれども、もうマクビーさんは、あるいていってしまいました。

つぎのあさ、マクビーさんは、メリウエザーさんのへやにいきました。

「なんのごようですか、マクビーさん？」

と、メリウエザーさんは、さびしそうなこえで しずかにききました。

「あもう、ごぞんじないかもしれませんが」
と、マクビーさんはいいました。

「ライオンが いるんです。としよかんに」

メリウエザーさんは、いすから とびあがると、ろうかへ かけだしました。マクビーさんは、にやっとして、

「はしつては、いけません！」
と、こえをかけました。でも、メリウエザーさんには、きこえませんでした。

たまには、ちゃんとしたわけがあつて、きまりをまもれないことだつて あるんです。
いくら としよかんのきまりでもね。

問一 線部A～Eのカタカナを漢字に直して答えなさい。(ただし、楷書でていねいに書くこと)

問二 () 欄 a～d に入る語として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ゆっくりと イ じっと ウ あわてて エ うなだれて

問三 線部「ずんずん」と同じ表現技法を使用している表現を、文中の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

問四 線部①「メリウエザーさんは」はこの文の主語です。この主語に対応する述語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ライオンの イ まんまえに ウ くと エ いいわたしました

問五 線部②「やったー!」と、こどもたちは よろこびました」とありますが、「こどもたち」のこのときの気持ちとして、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア メリウエザーさんから許可を出させることに成功して、論破できたことを誇らしく思う気持ち。
イ メリウエザーさんから許可をもらったことが嬉しく、明日からのお話の時間が楽しみな気持ち。
ウ メリウエザーさんの許可によって、外でライオンと一緒にお話の時間を行って楽しみな気持ち。
エ メリウエザーさんのライオンへの優しさがあふれ出たことを感じる事が出来て幸せな気持ち。

問六 線部③「としょかんのマクビーさんは、おもしろくありません」とありますが、その気持ちを表現した言葉として、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒り イ 悲しみ ウ 妬み(ねたみ) エ 哀れみ(あわれみ)

問七 線部④「そして、いままで いきてきたうちで、いちばんおおきなこえで ほえました」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄に二十字以内で答えなさい。

メリウエザーさんを助けなければならないのに、() 二十字以内 () から。

問八 線部⑤「ライオンのみみが ぴくっと うごきました」とありますが、「ライオン」のこのときの気持ちとして、もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分がしたことを後悔しているものの、わけがあつて行ったことを許してくれると思ひ、心が揺らいでいる。
イ 自分がしたことを後悔しているものの、今さら図書館の決まりが変わっても意味がないと、落ち込んでいる。
ウ 取り返しのつかないことをしてしまったと落ち込むとともに、マクビーさんに対する怒りがこみあげている。
エ 取り返しのつかないことをしてしまったと落ち込むとともに、マクビーさんの優しさに耳をうたがっている。

問九 本文中に述べられている内容と合っているものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 図書館にはライオン用のルールはなかったため、盲導犬用のルールを適用することにした。
イ メリウエザーさんは、ルールは大切だが、それを時には破っても仕方ないと理解している。
ウ マクビーさんは、ライオンよりも自分の方が、仕事ができていることを誇りに思っている。
エ ライオンは図書館でのお話の時間が大好きで、そのためなら静かに過ごすことを決意する。
オ ライオンはメリウエザーさんを助けるため、いけないと分かっているにもかかわらず大きな声を出した。